



互いの命を守るために

校長 赤松 弘一



5月5日は二十四節季の立夏です。薫風香るといふ表現がふさわしい、さわやかな季節の到来です。しかしこの気持ちの良い気候も、やがて梅雨の湿った空気に入れ替わります。そしてその後は……やはり今年も暑くなるのでしょうか。



さて、兵庫県をはじめ、各地に緊急事態宣言が発出され、本校でも計画していました6月3日から3年生の中部日本方面への修学旅行を延期することになりました。新型コロナの感染状況の収まりを待って、秋に実施していく予定ですので、3年生の皆さんは今しばらく辛抱してください。

昨年までと違い、現在の感染は変異型のウイルスが大勢を占めるようになりました。この変異型のウイルス感染は、中学生や若者にも広がっており、今後、家庭内感染や学校での感染の拡大が心配されています。学校で感染が広がる可能性が高いのは、マスクを外す給食の時間です。「手洗い消毒をし、全員が前を向き、しゃべらずに静かに食べる」をこれからも徹底していかねばなりません。保健所から濃厚接触者と判定された場合はPCR検査を受けることとなりますが、これが陰性であっても潜伏期間等を考慮し、2週間は自宅待機（出席停止）となります。これは教員も同様ですので、教員が濃厚接触者と判定された場合、2週間は教壇に立てなくなり、授業の実施に大きな影響を及ぼします。また、感染した場合は後遺症が残り、その回復には相当の時間がかかるといわれています。複数の教員がそのような状況になると、学校の教育活動の継続そのものが難しくなります。

一昨年の感染の拡大以降、教員は飲食を伴う送別会等の会合や、感染リスクのある場所への出入りを自粛し、学校に感染を持ち込まないように努めています。ご家庭におかれましても、毎日の検温や健康状態の把握に努めていただき、ご家族に症状があったり、職場等での濃厚接触の判定を受けたりしてPCR検査を受ける場合は学校への連絡をお願いします。

もはや誰が感染してもおかしくない状況にあります。感染した人に責任があるものではありません。悪いのはウイルスです。感染した人を責めるのではなく、支えていくことが大事です。この状況が今後どうなっていくのか、私たちは楽観的に考えることなく、さらなる状況悪化に備えて最大限の対策を講じながら暮らしていかねばなりません。

医療や介護関係者の方々は毎日全力で治療や看護にあたられています。今は社会のみんなが「コロナを乗り越える」という目的のために一つになって協力し、支え合い、自分にできることに真摯に取り組むことが必要です。

これからの学校の行事や部活動などは、様々な変更を迫られることが予想されます。それでも一度しかない今日を大切に、できることを手探りしながらこの状況を乗り越えるために互いに力を尽くしましょう。

そして、誰も大切な命を失うことがないように。

そして、誰も大切な命を失うことがないように。



一つの命を守るために全力を尽くす